

平成30年度第1回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

○本市に対する意見

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分 ①実施中 ②一部実施中 ③検討する ④参考にする	本市の取組状況等	H31施策等への反映 ◎ 新規実施 ◇ 拡充 ○ 継続実施 □ 参考
1	平成29年度事業の検証について	外国人の子どもの不就学について、4名が不就学となっている理由は、今後不就学を出さないような対策を行うか。(中島委員)	①実施中	新たな来日をはじめ国内での転入など外国人の子供の就学状況は流動的な状況にある。不就学ゼロ作戦事業として2か月に1度定期的に不就学児童・生徒について訪問調査を実施しており、常時、公立学校や外国人学校等関係機関と連携体制のもと、就学につなぐ取組を継続して実施していく。不就学の理由は、宗教上の問題であったり、子供の心、言葉の問題である。	○ (継続実施)
2	SDGs未来都市の推進について	浜松市は創造都市やフェアトレードタウンになっているが、いくつも都市にタイトルが付いていくと最終的にどのようなまちか見えにくくなる。一度整理する必要があるのではないか。(高田委員)	③検討する	最上位計画である総合計画に掲げる都市の将来像「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」と理想の姿「1ダースの未来」実現のため、各種施策を進めている。本市のSDGsに係る取組として、SDGs未来都市計画に記載の「森林」「エネルギー」「多文化共生」分野のほか、フェアトレード推進や健康寿命の延伸など、SDGs達成に貢献する施策とともに、総合的に推進していく。	◇ (拡充)
3	SDGs未来都市の推進について	浜松の企業が海外でSDGsの取組を進めていることもあるので、市の施策の策定にあたっては、企業、団体の活動を視野に入ると、市の取組も厚みが増すのではないか。(志牟田委員)	③検討する	SDGsの達成に向けては、多様なステークホルダーの連携とパートナーシップが重要である。8月に国が設置した「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」を活用するとともに、平成31年度実施予定のSDGsシンポジウムや都市間連携サミット2019の開催等を通じ、企業、団体の活動について相互に情報共有を行い、新たな官民連携を推進していく。	◇ (拡充)
4	SDGs未来都市の推進について	17の目標で市民一人ひとりが関わることは必ずあるので、それをまとめるというのではないか。(村松委員)	③検討する	SDGsの達成に向けては、市民への理解浸透や普及啓発が必要である。SDGsが市民生活において、より身近なものと感じていただけるよう、情報発信に努めていく。また、平成31年度実施予定のSDGsシンポジウムの開催においては、本市と包括協定を締結している企業や大学に対し、参加を要請していく。	◎ (新規実施)
5	外国人材について	外国人の定住者が増えることで、日常生活や教育に関する問題が生じている。労働力不足解消のための外国人材という捉え方だけで議論を進めてよいか気になる。(前田委員)	①実施中	本市では、外国人材は生活者であるという視点を重視し、多文化共生施策を実施している。	○ (継続実施)

平成30年度第1回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

○本市に対する意見

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分 ①実施中 ②一部実施中 ③検討する ④参考にする	本市の取組状況等	H31施策等への反映 ◎新規実施 ◇拡充 ○継続実施 □参考
6	外国人材について	外国人の起業については、浜松には優秀な起業家がいる。そういった方が外国人と一緒に何かを興すなどして広がっていくのではないかと。(村松委員)	④参考にする	市内ベンチャー企業からは、“人材確保に苦慮しており、現在、優秀な外国人材の確保に向けた動きを進めている。”と聞いている。 外国人材の取り入れについては、SIBA(公益社団法人静岡県国際経済振興会)が、県内大学に通う留学生等の県内企業への就職を支援する「グローバル人材マッチング事業」や、国内の語学に堪能な外国人と県内企業とのマッチングを行う「求人求職マッチング事業」を行っている。本市においても、留学生向けインターンシップコーディネート事業を行い、企業と外国人材とのマッチングを行っている。 外国人の起業については、平成30年12月に法務省告示が改正され、在留資格の一つである「特定活動」の対象に、日本での起業を目指す外国人が新たに加わった。	□ (参考)
7	外国人材について	外国人には自分の能力を発揮するために日本社会で活躍したいという人もいますので、利用するというよりもそういった人が活躍できる場を提供するという考え方をすればいいのではないかと。(高田委員)	①実施中	浜松市多文化共生都市ビジョンにおいては「地域社会で活躍する外国人材の受入れ」を掲げている。外国人市民は地域社会や地域経済の担い手であり、まちづくりを進める重要なパートナーであるという考え方が大切であると考えます。 一方、外国人労働者の活躍には、労働条件や安全衛生の確保を含め、安心して暮らせる社会保障制度の適正化が必要であり、国の制度設計を注視する。 また、本市はインターカルチュラル・シティ・ネットワークに加盟しており、外国人の持つ多様性をまちの活力や創造につなげていくという新しい都市政策を支持している。	○ (継続実施)
8	外国人材について	来日してすぐの留学生は市役所の手続きが一人でできなかつたりする。留学生に対しての受入の体制があるとよいと思う。(岩井委員)	①実施中	静岡大学グローバル企画推進室から、同大学の留学生が市役所窓口における円滑な住民登録等の手続きが行えるよう支援の依頼を受け、市の国際交流員が通訳支援を行っており、他大学についても必要に応じ対応していきたい。	○ (継続実施)
9	外国人材について	定住者への対応と留学生への対応については分けて考える必要がある。(石川委員)	①実施中	市内大学との連携により、留学生を対象に、就業に関する情報提供、地元企業への就職支援を目的として、本年度は「外国人留学生のための日本企業就職セミナー」を開催した。「日本企業で活躍するために」と題した講演のほか、浜松市のものづくり企業等が200社以上が出展する「第12回ビジネスマッチングフェア」の企業ブース見学を行った。	○ (継続実施)
10	外国人材について	市で把握している情報ほか、誰がどのような情報を把握し集約しているかが分かると、来日した外国人も働きやすいのではないかと。(石川委員)	④参考にする	外国人労働者の雇用状況や労働環境整備については公共職業安定所、労働基準監督署が所管し、在留資格の認定等については入国管理局浜松出張所の所管であるため、国主導のもと、外国人労働者に対し、関係各機関の所掌業務についての積極的な周知、PRが必要である。	□ (参考)

平成30年度第1回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

○本市に対する意見

No.	テーマ	委員からの主な意見	区分 ①実施中 ②一部実施中 ③検討する ④参考にする	本市の取組状況等	H31施策等への反映 ◎新規実施 ◇拡充 ○継続実施 □参考
11	外国人材について	浜松には定住者の基盤があるので、受け入れ体制をしっかりとすれば、もっと人が集まると思う。そして集まった方が企業に就職できるようにすれば流出人口も回復するのではないか。今あるものを整理して、受け入れ体制を整えることが重要である。(山崎委員)	①実施中	多言語による情報提供や生活相談、日本語学習支援や外国人の子供の教育など、定住外国人に対する生活支援について、国際交流協会等の関係機関・団体と連携を図り、受入れ環境の整備に努めてきた。これまで外国人との共生に向けて取り組んできた経験やノウハウを活用し、浜松市多文化共生都市ビジョンを踏まえ、多文化共生施策を継続して進めていく。	○ (継続実施)
12	外国人材について	浜松は海外展開している世界的な企業があり、人材交流が盛んで国際交流もしやすい地域である。そういった点に着目するとよい。(杉田委員)	①実施中	本市へ多くの外国人材を呼び込むために、海外諸国へ向けPRしていくことは大事なことと考える。浜松市国際戦略プランを踏まえ、産業・観光、音楽などの本市の強みや特長、また食や文化体験などの資源を生かした都市の魅力発信に引き続き務める。	○ (継続実施)
13	外国人材について	入口の部分の企業への啓発、社会に入ってから市の受入体制の整備と対応が、外国人を受け入れるにあたっての手段となると考える。(杉田委員)	①実施中	受入れ後の体制については、外国人材は生活者であるとの視点から、地域の担い手として、その能力や多様性を地域の発展に生かし活躍できるよう、社会生活や社会参画に必要な情報の提供、相談窓口の充実に努めていく。	○ (継続実施)

平成30年度第1回浜松市"やらまいか"総合戦略推進会議における委員からの意見について

○ 委員からの取組状況の報告、その他の意見

No.	テーマ	委員からの主な意見
1	平成29年度事業の検証について	総合戦略の取組のうち、海外ビジネス支援や農水産物の海外販路開拓などはJETROの活動とも重なる。我々としても力を入れて貢献していきたい。(志牟田委員)
2	外国人材について	当初は単なる労働者として受け入れ、出稼ぎという考え方であったが、定住することで生活者、市民の一員となる。市では、入国管理政策と同時に社会統合政策が必要であると国に提言し続けている。(鈴木市長)
3	外国人材について	「人材不足だから外国人が必要」という考え方ではなく「あなたが必要」という考えで企業側も受け入れしていきたいと当社では考えている。(村松委員)
4	外国人材について	「外国人」という捉え方はざっくりしている。この国の方にこのような仕事に就いていただきたいという所まで示す必要があるのではと思う反面、外国の人に日本人が敬遠する分野に就いてもらおうということについてはすっきりしないものがある。(前田委員)
5	外国人材について	就職に繋げるためには日本語が必要である。日本語能力がなくて正社員で働くのは難しい。(中島委員)
6	外国人材について	高度人材を採用するのか、経営層を採用するのか、研究者を採用するのか、的を絞るのはいいと思う。(杉田委員)